



長生村長

石井としお通信

<http://www9.ocn.ne.jp/~tishii/>

11年5月 第84号

石井としお後援会

長生村七井土 1387-2

電話 090-3094-0321

## 岩手県野田村に支援物資届ける

3月11日に発生した東日本大震災で死亡された方、不明者の合計は5月10日現在「2万4千829人」です。今回の地震は想像を絶する大災害でした。また、福島原子力発電所の爆発による放射能汚染が未だに続き、風評被害で村内の野菜農家も価格低迷で苦しんでいます。4月22日には村が集めた支援物資を岩手県野田村に届けてきました。



—野田村役場に物資を下す—

### 全壊300件・死者37名

岩手県野田村では最大30メートルを超える津波で300世帯が全壊、死者37名、海岸近くの住宅と鉄道は壊滅的被害を受けました。野田村村長より「米、缶詰、ゴム手袋がほしい」とのことでした。4月7日より村の防災無線で呼びかけ、米36

俵、野菜などが寄せられ、村内商工会員の運送業者がボランティアで4月21日朝10時に村役場を出発し22日の朝9時30分に野田村に到着しました。



### 最大30メートルの津波

坂本副村長さんの案内で、防潮堤12メートルを超える津波で、跡形もない居住地を拝見。鉄道の枕木とレールは50メートルも飛ばされ、村長宅も流されていました。グシャグシャとなった車や残骸の山も見ました。お寺に避難していた方を訪ねますと「ふすまひとつ」の仕切りで生活されていました。私からは、「長生村の方々から頂いた支援物資をお届けにきました。遠慮なく使って下さい」と、お伝えしますと涙ぐむご老人がいらっしゃいました。副村長より「津波当日は8つの高台

の避難場所にそれぞれが避難したが、一つの避難所は津波が駆け上がり、破壊され亡くなった方がいました。今回の津波災害を通じて思うことは通年実施してきた避難訓練の成果は確実にあったと思います。今、願っていることは一日も早く仮設住宅を完成させることです。」とのことでした。

品目	数量	単位
お米	2200	Kg(36 俵)
ご飯	312	食
赤ちゃんおむつ	3000	枚
介護大人おむつ	1000	枚
手袋(軍手)	700	枚
トマト	200	Kg
梅干し	2	Kg
レトル食品	60	食
缶詰	550	個
ゴム手袋	700	枚

—野田村に持参した支援物資です—

## 長生村民に感謝します

今回、岩手県野田村に支援物資を届けることができたのは、各種団体や個人から米をはじめ、沢山の支援物資を頂けたからです。心から御礼申し上げます。

尚、野田村を長生村が支援した理由ではありますが、全国町村会に所属する岩手県の自治体より「野田村が困っているので支援してほしい」との要請があり、支援を決めました。また、3月・4月期に役場へ寄せられた義援金の合計は「722万

円」であり、社会福祉協議会を通じ、日赤に送金しました。ありがとうございました。今後も取り組みを続けます。



## 旭市にも御見舞に行く

3月26日、村の自衛消防隊がボランティアで旭市に入ることになり、私も旭市長にお会いし被災現場を見てきました。飯岡漁港では4メートルを超える津波が襲い「全壊427件、死者13人、不明2人、床上浸水387件等。」とのことでした。不足物品を聞きますと「紙コップ、紙うつわがほしい」とのことで、村から支援物資を届けました。村の自衛消防隊職員は当日、泥につかった家の掃除ボランティアの作業に入りました。



## スーパーで義援金活動

また、ある女性グループは旭市への災害支援として義援金を近隣のスーパーに

立ち、訴えました。その募金を私も同行し 2 回目の旭市訪問となりました。

品目	数量	単位
紙コップ	1500	個
紙うつわ	600	枚
割り箸	200	対

—旭市に持参した支援物資です—

## 本村の避難経験の実状

3 月 11 日の東日本大地震を振り返りますと、本村での地震は「震度 5 弱で、津波は銚子観測所 2.2 メートル」でした。また、テレビでは「九十九里海岸は 10 メートル以上の津波」とのことでした。地震発生直後、村は直ちに災害本部を発足し、一松、信友、金田、七井土地区住民に対して、一松小学校、八積小学校、文化会館、福祉センターに避難誘導をおこないました。今回の津波警報を受け避難された方々より沢山のご意見が寄せられています。

## 防災計画を見直します。

現在、村は村民から寄せられた貴重なご意見や提言を基にして職員で協議検討を重ねています。そして、今後の津波対策に生かすつもりです。尚、当面と長期に対する対策でいきます。

(1) 一松地区住民の避難場所は一松小学校から、村の文化会館、保健センター、福祉センターに変更したことを 5 月の広報長生でお知らせしました。

(2) 想定する津波の高さを変更し、影響する浸水地域への新たな防災マップの作成や防災計画の見直し、避難経験された方へのアンケート実施、近隣自治体との協議なども行っていきます。

## 福島県より避難者 25 名

村への避難者登録は「最大 25 名」であり、全て福島県からです。食糧の確保ができないことや、原発事故による放射能汚染が心配とのこと。中には、「放射能汚染が心配なので長生村で仕事を探し村で生活したい」という方もいます。村は住居費用に月 6 万円の補助を出しています。また、村民の方々より住居提供の申し出や食糧支援も頂き感謝しています。

## 議会より付帯決議「幸福の科学に納付書を発行すべき」への回答

3 月議会で「幸福の科学に納付書を発行すべき」との、11 名の賛成議員による付帯決議をいただきました。村も課税したい意思はあるものの、国の法律と使用実態を考えた末、5 月 10 日に下記の回答要約を中村議長宛てに報告しました。

記

(1) 幸福の科学への課税は地方税法第 348 条第 2 項第 3 号で「宗教法人が専ら宗教目的の為に境内建物・境内地を使用していれば非課税適用」とのこと。

(2)使用実態から見ますと「専ら宗教の瞑想として使っている」ことを役場職員が確認。県と弁護士より「使用実態から言って課税できる土地ではない」とのこと。

(3)有料駐車場、売店などの収益事業、宗教目的外の使用実態があれば課税できますが、その使用実態はありません。

※尚、類似する話として神社で使用する土地が「年一回の祭りで使っている境内地でも課税できない例」もあります。

以上、議会から「幸福の科学に納付書を発行すべき」との付帯決議に対する村の見解は「非課税」を回答しました。



## 石井後援会総会開催

4月23日、村文化会館で第8回石井としお後援会総会を開催しました。総会は東日本大震災で被災された皆様に対し黙祷をおこない、石塚会長より、320年前に発生した元禄地震の津波で村民800人が亡くなったことや村内の海拔について、ましこ議員より出身県、福島における、いわき市を視察した報告。石井村長からは「合併をせず、中学校建設や子育て支援を高めたこと」などの報告を受けました。質疑では信友地区会より

「今回の地震に伴う津波被害への不安を解消する為に、村の災害対策を早く示してほしい。」と要望があり、他にも「村内に避難された方への見舞金を取り組んでほしい」との意見も出され、会場で見舞金を取り組みました。

## 編集後記

① 5月12日に東京で開催された片山総務大臣学長の地方自治経営学会に参加し「東日本大震災の復旧では、コミュニティと基礎自治体の力はすごい、合併で大きくした自治体は首長や職員が末端まで把握できないところもある」との報告でした。改めて役場機能の力と合併しなかった意義について強く感じました。

②13日の県知事との意見交換では「福島原発の放射能汚染の調査を全自治体でおこない発表してほしい。千葉県沖で同様の地震津波が襲った場合の防災計画を作してほしい」との貴重な意見がだされました。

③ 昨年からはスタートした買い物タクシーへの一回1000円の補助(年48回)を知らない方が多いようです。65歳以上で車を持たない方や、日中家族が働きに出て買い物などに不便している方は、役場福祉課へ申し込みし、審査を受けてください。

※通信は石井後援会の会費と募金で発行しています。また、被災された方には一日も早い復興をお祈りします。